

高等部教育目標				
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う				
探究型カリキュラム教育/学習目標				
SDGs の達成を目指し、Mastery for Service を体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける				
探究型カリキュラムにおける 5 つの学びの方針 Five Principles for Learning				
1. 自分事として ＜オーナーシップ/一人称＞	2. 社会/実践を通して ＜PBL 型/アクション＞	3. 知識を大事に ＜自ら得る知識/高める関心＞	4. ミニケーションを通して ＜自分/他者のやりとり＞	5. 生徒・教員が共に ＜共に探究する関係性＞
上位学習目標				
【知識・技能】 ・自分が関心のある社会的課題の内容について、自分の言葉で説明することができる ・社会的課題に取り組んでいる団体、組織を訪れてフィールドスタディを実施することができる 【思考力・判断力・表現力】 ・自分が関心のある社会的課題について他者に自らの意見を伝える事ができる ・自分が関心のある社会的課題について調べ、その解決方法を考案することができる 【学びに向かう力・人間性】 ・主体性をもって、粘り強く学習課題に取り組もうとしている。 ・社会課題を自分事とし、社会に参画・貢献する姿勢を持とうとしている。				
下位学習目標				
【知識・技能】 ① 自分が関心のある社会課題の内容について、自分の言葉で説明することができる ② 社会課題に取り組んでいる団体や組織を訪れてフィールドワークを実施することができる ③ データや資料を適切に使って、効果的なプレゼンテーションを行うことができる 【思考力・判断力・表現力】 ① 自分が関心のある社会課題について、他者に自らの意見を伝えることができる ② 自分が関心のある社会課題について調べ、その解決方法を提示することができる 【学びに向かう力・人間性】 ① 数ある社会的課題の中から、自分自身がより理解を深め、課題解決をしたいと思うことができるものをみつけようとしている ② 社会課題と向き合う中で、その課題を学ぶことが自分自身の人生においてどのような意味を持つのか関連付けようとしている ③ 社会的課題に向き合う中で、社会的・文化的・歴史的な構造と人為との関係について考察しようとしている				

授業日	4/24	1 学期授業回数	体験授業
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 ----- 本時の具体的な目標 ・ 高1 グローバル探究 BASIC の1 年間の見通しを理解する。 ・ 問い作りにおける2つのポイントを意識して、問いを練り上げることができる。		
時間 授業内容	15:40- 		

授業日	2025年 5月8日	1学期授業回数	1回目（全6回）
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】① 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】①③ 本時の具体的な目標 身近な社会課題に対して、疑問や関心を持ち、よりよい問いを立てることができる		
時間 授業内容	15:40- 探究の手法を学ぶ① - 社会課題1 - 今回取り上げる課題「ジェンダー平等を実現しよう」 15:50- ミスコン廃止をどのように考えるか？ ミスコン廃止に関する問い 紹介上智大学「ミスコン」廃止、新たなコンテスト開催へ アンケート ～ミスコンがあってもよい or ミスコンは廃止すべきだ～ ミスコン廃止に関する問い立て 上智大学ミスコン廃止の記事を読み、疑問点や違和感を問いの形で表現する Point1 「課題」はギャップから見つけよう Point2 「問いの観点を変える」「問いの規模を変える」 16:10- グループワーク ロイロ共有ノートを使って、班ごとに問いを共有する メンバーが作った問いからよい問いを3つ選び、さらに練ってよりよい問いに書き換える 		
評価方法	課題に対する「問い」を、複数たてているか、観点をかえているか、規模をかえているか		
宿題指示	ロイロで配信されたジェンダーに関する用語を調べてくる（例：エンパワメント、マンスプレイング）		

授業日	2025年 5月15日	1学期授業回数	2回目 / 全6回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 身近な社会課題に対する多様な主張とその根拠を、論証モデルを用いて整理することができる		
時間 授業内容	15:40- 復習1 キーワードの相互発表 宿題で調べたキーワードを、班で発表・共有 例：アンコンシャスバイアス		

		 キーワードをグループ内で共有する様子 復習2 前回の内容と問い立てのコツ 16:00- WORK1 「前回作った問いを、規模・狭い広いによって並べ替えよう」 事前準備 ロイロ共有ノートに前回作成した問いと、ピラミッドのシンキングツールを班ごとに用意 ①狭い問いであれば上に、広い問いであれば下に、「問いのカード」を移動する ②発表 16:20- WORK2 「3つの問いを選び、狭い問いは広い問いに、広い問いは狭い問いに書き換えよう」 共有ノートで並び替えた問いを選び、書き換える 16:30- 講義 三角ロジック ①三角ロジックとは ②理由付けの重要性 ③帰納法と演繹法
評価方法	課題に対する問いを、狭い問いや広い問いに分類し、自身で改善することができる。	
宿題指示	ミスコン廃止記事の情報を、三角ロジックで整理する。	

授業日	2025 年 5 月 29 日	1 学期授業回数	3 回目 / 全 6 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ミスコンに対するさまざまな主張について、その根拠を分析したうえで、自分なりの意見を述べることができる。		
時間 授業内容	復習1 前回授業の「問いの書き換え」に対するフィードバック -問いの焦点化、問いの規模変更ができていないか。 -「ある」「ない」2択の狭い問いになっていないか。 復習2 三角ロジック -主張、事実・データ、論拠・理由付け -意見と事実の違いは何か		

	説明 対話型論証モデルとは  上智大ソフィア祭実行委員とコンテスト廃止派を例に説明 Group Work 1 コンテスト廃止派①法政大学HPの「ミスター法政コンテスト」 法政大学HPの文章を読み、班員と協力しながら、対話型論証モデルの「対立する主張・異なる主張」「事実・データ」「論拠・理由付け」を埋める。 Group Work 2 関西学院で、ミスコンを行うことについてどう考えますか？ ロイロ共有ノートで用意されたカードから「ミスコンがあってもよい」「ミスコンは廃止すべきだ」を選び、どの立場になるか決める。さらに、理由（なぜなら～）と条件（ただし～）を付け加える
評価方法	主張、事実・データ、論拠・理由付けの違いを理解し、自分なりの意見を述べることができる。
宿題指示	Group Work の共有カードの意見文を完成させる。

	16:20	https://research.iko-yo.net/report/8961.html (2023年9月17日最終閲覧) 名古屋テレビ (2023年9月5日) 『愛知県の子どもの“休み方改革”「ラーケーション」で「保護者と一緒に過ごそう」名古屋市は導入見送り』 (https://www.nagoyatv.com/news/?id=020595) (2023年9月17日最終閲覧) Group Work② 対話型論証モデルを班で協力して作成する 班で協力し、兵庫県でラーケーションを導入することが適切であるとする立場の三角ロジックと、適切でないとする立場の三角ロジックを記入 
評価方法		①「事実論題」「価値論題」「政策論題」の違いを理解し、問いを分類できる。 ②意見と事実の違いを理解し、ラーケーション導入賛成の立場と、導入反対の立場の三角ロジックを作成することができる。
宿題指示		ラーケーションを導入することが適切であるとする立場の三角ロジックと、適切でないとする立場の三角ロジックを完成させる

授業日	6/19	1学期授業回数	5回目 / 全6回
本時学習目標	主なターゲット【知識・技能】① 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】①② 本時の具体的な目標 社会課題2について、集めた情報をもとにインタビュー調査の項目を決めることができる。		
時間 授業内容	15:40 16:00	復習 前回授業「事実論題・価値論題・政策論題の分類」に対するフィードバック 復習 前回授業『兵庫県は「ラーケーション」を導入するべきであろうか』対話型論証モデルフィードバック Group Work① 情報記録カード① 今井悠介『体験格差』講談社現代新書. pp.17-19. 「体験はなぜ重要なのか」情報を読み取り、考察・分析を加える 情報記録カード② 今井悠介『体験格差』講談社現代新書. pp.26-30. 「体験ゼロの子どもの割合」情報を読み取り、考察・分析を加える 情報記録カード③ 今井悠介『体験格差』講談社現代新書. pp.41-46. 「放課後の体験の参加率」情報を読み取り、考察・分析を加える 情報記録カード④ 今井悠介『体験格差』講談社現代新書. pp.63-64. 「旅行の格差」情報を読み取り、考察・分析を加える	

	16:20	講義① 質的データと量的データの違い 講義② インタビュー調査の流れ 情報記録カード⑤ 今井悠介『体験格差』講談社現代新書. pp.182-183. を読む。 「ハロカル」の紹介 講義③ インタビュー調査の方法 ～インタビューガイド作成の要点～ Group Work インタビューガイドの作成 
評価方法		② 質的データと量的データの違いを理解し、インタビュー調査実施の目的を述べることができる。 ② テーマ「ラーケーション」と「体験格差」を踏まえ、インタビューガイドを作成できる。
宿題指示		① インタビューガイドを完成させ、総合司会者は質問内容を整理する。 ② インタビューにむけ、公益財団法人チャンスフォーチルドレンの活動について事前に情報を収集しておく。

授業日	6/26	1 学期授業回数	6 回目 / 全 6 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】① 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】①②③ 本時の具体的な目標 ・社会課題 2 について、CFC のスタッフに適切に質問し、情報をさらに深掘することができる。		
時間 授業内容	15:40-	復習 インタビューガイドの確認 インタビュー 公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン 内藤日香里 様 ※インタビュー内容の詳細については、報告書掲載の事前許可を取っていないので割愛する。 (事前準備) ・調査対象者を決め下調べをする(前回の授業) ・インタビューガイドの作成(前回の授業) ・司会者 2 名を決める(前回の授業) ・あらかじめ受講生徒から募集した質問を整理する(当日 2 日前に司会者ミーティングを実施) (当日) ・司会者 2 名がインタビューガイドに従い、司会進行する ・疑問に思ったこと、質問したいことがあれば都度質問する(半構造化インタビュー)	
	15:45-		

		
	16:30-	振り返り 今日のインタビューで、印象に残ったこと、考えたことをロイロノートの提出箱に提出。
評価方法		① インタビューガイドに従い、円滑にインタビューを進行できる。 ② あらかじめ決められた質問以外に、回答内容に応じて質問を投げかけ、掘り下げていくことができる。
宿題指示		今日のインタビューで、印象に残ったこと、考えたことをロイロノートの提出箱に提出。当事者・関係者の方の生の声を聴いて、リサーチクエスション（探究上の問い）に関して、どのように考えが深まったかを中心に書くこと。7月9日に行われるフィールドワークに関する質問を4つ考えてくる。

授業日	2025年 9月4日	2学期授業回数	1回目 / 全11回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】① 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】① 本時の具体的な目標 ・SDGsの領域から興味・関心がある課題を設定することができる		
時間 授業内容	15:40	1学期のフィールドワーク（ブレインヒューマニティ）振り返り 1分×4人振り返りの発表→他者の意見からの気づき・共感・質問→話し合った内容を班長が発表 1学期の振り返りと2学期の見通し 今までではジェンダーや貧困をテーマに、問い立て等のモデリング（探究の練習）をしていた。2学期以降は、自分たちが興味関心のある分野で問いを立てて、調べて、インタビュー等を実施していく。	
	16:10	夏休み課題（興味のあるSDGs課題を発表） 教員が指名、ロイロノートにまとめたデータをスライドを見ながら発表 課題設定 SDGsの領域から興味・関心がある課題を設定していく。SDGs17の目標&169のターゲットの資料を見つつ、アイデアマップに自分の興味関心があることを書いていく。書いていく中で関連性のあるものは繋げていく。 ※関西学院高等部電子図書館サービスやヨミダススクール、朝日けんさくくん、CiNii、e-Stat等について紹介する。	

	16:25	ロイロアンケート SDGs で興味関心のある領域を第 5 希望まで選択する。今後は、興味関心が同じ領域の人同士で進めていくことになる。
評価方法	① フィールドワークの振り返りをもとにさらに問いを深めることができる ② 興味のある SDGs の課題を調査したデータをもとに要点をまとめることができる	
宿題指示	SDGs の興味のある分野について調べる	

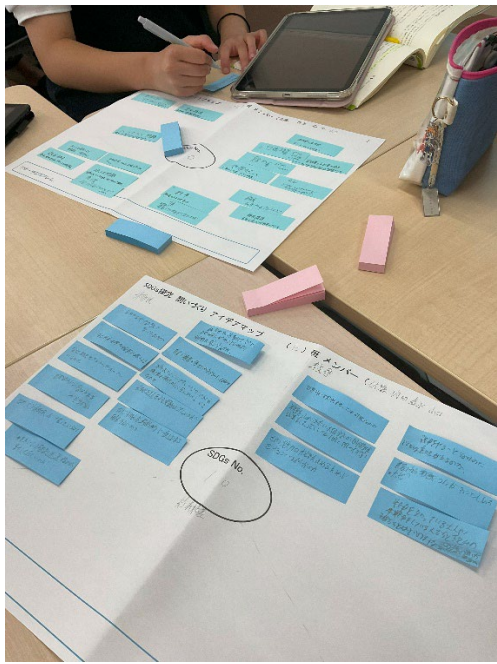


授業日	2025年 9月11日	2 学期授業回数	2 回目 / 全 11 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①③ 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】① 本時の具体的な目標 SDGs の領域から、探究していく課題（リサーチプロブレム）を決めることができる		
時間 授業内容	前回のロイロアンケートにおいて、領域が決まった 3～5 人のグループは同じ席に座る。 講義（教科書 P16,17） 「問題」と「課題」と「問い」の違いについて - SDGs は広い領域なので課題を絞り込む。課題から問いを立て、さらに粒度を落とす。 - リサーチクエスションの説明（地球温暖化を例に） - SDGs という広い領域から、どのような課題に焦点をあてるのか。1 学期の「ジェンダー」「貧困」に関する授業から、具体的な流れを例示。 - 課題を見つけるポイントの説明（ミスコンの例、ラーケーションの例） - 今後の探究活動における条件の説明（論文、文献、フィールドワークを行う） - 最近の事例「富士山の景観」、「オーストラリアでの未成年の SNS 禁止」を紹介 アイデアマップを作成（個人） アイデアマップ作成（グループ） 班内で各自の興味・関心を発表して、班ごとにアイデアマップを作成する（付箋を貼る）		
評価方法	① 「課題」と「問い」の違いを理解し、1 学期のモデリングの経験から自分たちの課題を模索していくことができ		



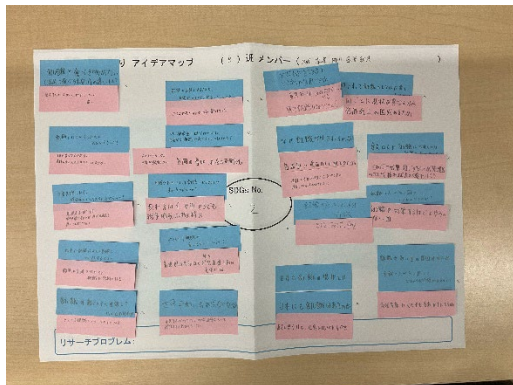
	る。 ② 班で意見を共有してアイデアマップを作成し、SDGsの広い領域から具体的な課題に焦点をあてることができる。
宿題指示	班ごとのアイデアマップを完成させる。

授業日	2025 年 9 月 18 日	2 学期授業回数	3 回目 / 全 11 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①③ 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】① 本時の具体的な目標 ・ SDGs に関わる課題に対して、 問い（リサーチクエスト）を 設定することができる。		
時間 授業内容	15:40 16:00 16:10 16:20	導入 大学生 2 名の自己紹介 前回の内容の確認 SDGs の領域から、課題を考えてきた。そこから 3 週間で問いを立てていく。 「問いを立てる」ことと「どんなことが調べられるか」ということを行ったり来たりしながら、よりよい問いを作っていく。課題は大体絞り込んだ後、リサーチクエストを立て、探究していくことを焦点化する。 1. 各班でリサーチプロブレムに対して、問い（青付箋）を個人で考える（10 分） 2. 問いを立てたらどの問いがよいか、グループで議論する（20 分） 3. 問いに対して仮説（赤付箋）をたてる 	

	 ※大学生 2 名に参加してもらい、問いや仮説を一緒に考える。
評価方法	① 1 学期に習得した内容を踏まえ、問いと仮説を作成し、班における議論や今後の計画等に積極的に参画することができる。 ② 発表者は発表・質疑応答ができる。聴衆者は発表を聞いて感じた疑問を、質問をすることができる。
宿題指示	問いにふさわしいか（調査が可能なものか？身近なものか？）を 3 週間かけて作成する。

授業日	2025年 9月25日	2 学期授業回数	4 回目 / 全 11 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①③ 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】① 本時の具体的な目標 ・リサーチエスチョンに対して、既に明らかになっていることを明確にできる		
時間 授業内容	16:40 15:45	導入 ・授業終わりまでに班長を決める。 ・課題の中から焦点を絞って問いを立て、さらにその問いを良くしていく。 ・問い立てと並行して情報を収集する。 ・今どこまで世の中で明らかになっているか、どこまで解決策があるか資料を調べていく。自分が立てた問いに対して既に解決策が出ているなら、その問いを変えていく。 講義（教科書 P119） ・リサーチエスチョンを練り上げる。新規性があるか、探究しがいがあるか、仮説が検証できるか等 ・有益な書籍をスキミング（流し読みする）。気になる場合は書誌情報をメモしておき、後でリーディング（熟読）する。 ・問いが立ったら方向性を決める。過去に分かっていることを論文等で調査し、まだ分かっていることをインタビュー調査またはアンケート調査をする。対象者や実施方法を考え、研究の計画を立てていく。	

	16:10	※サンゴの例だと、実際にサンゴを育ててみて、新しい提案ができるところまでいくとよい。 スライドを共有し、今後進めていくことの説明 Google Scholar 等の論文検索サイトの説明 班活動 班の発表と質疑応答
評価方法	① 論文等の資料を調査しつつ、問いと仮説を作成することができる。 ② 発表者は発表・質疑応答ができる。聴衆者は発表を聞いて感じた疑問を、質問をすることができる。	
宿題指示	論文検索サイトから有益な資料を収集しつつ、リサーチエスチョンを完成させる。	

授業日	2025年 10月2日	2 学期授業回数	5 回目 / 全 11 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①③ 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】① ----- 本時の具体的な目標 ・リサーチエスチョンをブラッシュアップして、調査内容を焦点化することができる。		
時間 授業内容	15:40 16:00	導入と前回の振り返り ・Classi 校内グループに配信されている共有リンクから、前回の班の共有スライドを開く。 ・教科書 P119 を参考に問いを練り上げていく。 ・本日でリサーチエスチョンは完成させる。有益な資料はメモをとるか、PDF をダウンロードしておく。 ・情報カードと文献引用の書き方の説明。 班活動 共有スライドを作成していく。 	
評価方法	① リサーチエスチョンを完成させ、有益な資料を収集することができる。 ② 発表者は発表・質疑応答ができる。聴衆者は発表を聞いて感じた疑問を、質問をすることができる。		
宿題指示	論文検索サイト等から有益な資料を引き続き収集しつつ、共有スライドを完成させる。		

授業日	2025年 10月9日	2 学期授業回数	7 回目 / 全 11 回
-----	----------------	----------	---------------

本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】① 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】①② 本時の具体的な目標 ・書籍や論文を1つ以上選び、その内容を要約することができる。
時間 授業内容	今日の流れの説明 1. 「情報記録カード」(図1)の作成に関する説明 2. 情報収集と情報カード作成ほど情報の収集 と 情報カードへのメモ ・リサーチクエスションに対して先行研究で既に明らかになっていることを徹底的に調べる。 ・塊のある知見は「本」で、新しい知識は「インターネット」で調べる。 ・信頼できる資料, データに基づいて探究し, 参考文献を明確にして発表する。 情報を各自2つ以上収集できたら終了とする。 情報カード① 先行研究から得た事実・データの記入例① 【参考文献】八重樫敦子・江藤安彦・寺 永 喜 小沢孝剛・遠藤貴子(2003)「祖父母の子育て参加が孫娘の子育てに与える影響」『川崎医療福祉学会誌』13巻2号, pp.231-235. ◆題目した内容(引用 or 要約) (要約の例)ー内容の要点を記す 乳幼児を1つ452人の母親にアンケート調査した結果、①子育ての相談相手や情報源には、母親の父母をあげているものが多く、子育て不安との関連も高く、②業の遊に含む祖父母は、祖とよく交流しており、③祖父母の子育て参加の相手は、母方祖母、父方祖母、母方祖父、父方祖父の順であり、④祖父母の子育て程度が半祖父母の母親の子育て不安が低くなっていた。 (引用の例)ー公平証書をつけてそのまま引用する(引用ページを記載) ・「祖父母との居住距離・交流(訪問・電話)については、孫娘の子育て不安とは関連が認められなかった」(p.241) ・「祖父母と同一地域内で生活するよりも遠距離な距離を隔るながら、遠距離な交流をもつ方が祖父母と子夫婦の絆が少なくなると懸念される」(p.242) ・「遠距離な関わり方をしている母親の方が、子育てについて祖父母と意見が対立することが少なく、その結果、子育て不安やストレスも軽減されることが少なかった」(p.242) ◆考察・分析 祖父母のサポートがあればあるほど、子育てについての悩みやストレスが軽減されると思っていたが、そうではないということが分かった。祖と、距離感や関わり方で態度が異なり、空回りになるものがあり、子育てをする母親にとってありがたいのだから、核家族化が進む中で、祖父母から適度で頼る援助が受けられない人も多いとふりが、そんなお梅さんにはどのような支援ができるかに考えてみたい。 情報カード記入例 先行研究を探す様子
評価方法	本または論文等を用いて、問いに関連する内容を要約または引用することができる。
宿題指示	引き続き、リサーチクエスションに関連する先行研究を収集する。

情報カード記入例



先行研究を探す様子

授業日	2025年 10月23 日	2学期授業回数	8回目 / 全11回
本時	主なターゲット【知識・技能】①【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】①②		

学習目標	本時の具体的な目標 ・書籍や論文を1つ以上選び、その内容を要約することができる。	
時間 授業内容	15:40	今日の流れの説明 1. 「情報記録カード」(図1)の作成に関する説明 2. 情報収集と情報カード作成 情報の収集と情報カードへのメモ ・リサーチクエスチョンに対して先行研究で既に明らかになっていることを徹底的に調べる。 ・塊のある知見は「本」で、新しい知識は「インターネット」で調べる。 ・信頼できる資料、データに基づいて探究し、参考文献を明確にして発表する。 ・対立する主張、異なる主張のデータも探す。
評価方法	本または論文等を用いて、問いに関連する内容を要約または引用することができる。	
宿題指示	引き続き、リサーチクエスチョンに関連する先行研究を収集した内容を次回の授業で発表する。	

授業日	2025年 11月13日	2学期授業回数	9回目 / 全11回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】 本時の具体的な目標 ・問い(リサーチクエスチョン)に対して、調査で明らかにしたいことを整理できる ・調査設計に基づき、調査内容を確定し、調査を依頼することができる		
時間 授業内容	15:40 16:00 16:10	今日の流れの説明 グループ内で先行研究の調べた内容を発表 調べた情報+考察/分析の発表 グループワーク 1. 調査の依頼 進捗チェックリスト(図1)に沿って、調査内容を具体化していく。 2. アポイントのとり方[電話編]/メールの書き方 資料をもとに電話で話すことの下書きを書く。または調査依頼メールの下書きを作成する。 3. 担当の先生のチェックを受ける 訪問先が決まっていない班は居残り	

	**** インタビュー調査 進捗チェックリスト ※完成した箇所は■に黄色でハイライトをつけること 【インタビュー実施前】 ☐ 調査対象者を決めた ☐ 調査対象者の連絡先(電話番号、メールアドレスなど)を入手した ☐ 調査対象者について入手可能な情報をできる限り入手して読み込んだ ☐ 調査対象者に連絡して、アポイントを取り付けた。その際、自分の連絡先も伝えた。 ☐ インタビューガイドに沿って、インタビューの質問項目を決めた ※「必ず聞くこと」と「時間があれば聞くこと」を分けているか？ ※ 質問の順番 ①事実確認→②間接的な質問→③直接的な質問)を考慮しているか？ ☐ 完成したインタビューガイドを担当の先生にチェックしてもらった ☐ 調査対象者に送る協力依頼メールの下書きを作成し、担当の先生のチェックを受けた ☐ 調査対象者に協力依頼メールを送った ※ CC(Carbon Copy)に担当の先生のメールアドレスを入れること 【インタビュー実施時】 ☐ インタビューの目的を伝え、インタビューの録音の許可を得た ☐ インタビュー中はメモを取りながら話を聞いた ☐ 写真撮影の許可を得て、インタビューの記録写真を撮った 【インタビュー実施後】 ☐ インタビューの協力のお礼メールの下書きを作成し、担当の先生のチェックを受けた ☐ 調査対象者にインタビューの協力のお礼メールを送付した。 ※CCに担当の先生のメールアドレスを入れること ※インタビュー実施からなるべく早く(時間をおかず)に送付すること ☐ インタビューの録音データで印象に残ったところを聞き直して文字に起こした
評価方法	① 問いに対して、既に明らかになっていることと、未だ分かっていないこと・深掘りしたいことを明確にすることができるとができる。 ② 問いと調査内容の整合性がとれている。 ③ 調査内容からインタビュー先が決定できている。
宿題指示	訪問先の情報を HP などを参考に調査する。

授業日	1 1月20 日	2 学期授業回数	10回目 / 全11回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】① 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】①② 本時の具体的な目標 調査設計に基づき、調査内容を確定し、調査を依頼することができる。		
時間 授業内容	今日の流れの説明 ① 調査設計から調査の依頼へ ② 今後の予定 グループワーク 1. 調査の依頼 進捗チェックリスト(図1)に沿って、調査内容を具体化していく。 2. アポイントのとり方[電話編]/メールの書き方		

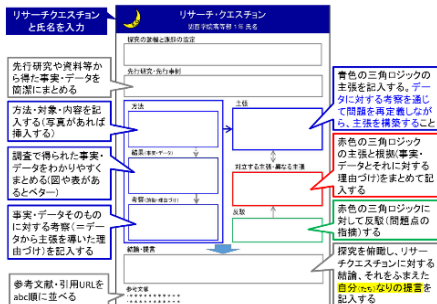
		4. 調査対象者に調査を依頼する 担当教員に報告する
評価方法	進捗チェックリストを参考にしながら、インタビュー調査を依頼することができる。	
宿題指示	調査依頼が終わっていない班は、調査依頼を完了する。	

授業日	11月28日	2学期授業回数	11回目 / 全11回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】①【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】①② 本時の具体的な目標 ①調査内容を確定し、先方へメール等に返信することができる。 ②フィールドスタディ先の関連情報を整理し、インタビューガイドを作成できる。		
時間 授業内容	スケジュール確認と導入 ・少なくとも今日までに対象者にアポイントを取る。共有資料にあるメールの雛形を参考にする。 ・アポイントを完了した班は、事前調査をしていき、質問内容を確定させる。 ・「調査に協力できません」と返答されても、それが当たり前と考え、第2、第3の調査先にあたろう。 ・「事前に質問を送ってください」と言われたら対応する。半構造化インタビューの内容を思い出し、事前質問で概要を質問しつつも、当日ではより詳細な質問で深掘りしていく。 グループワーク 1. 調査の依頼 1)進捗チェックリストに沿って、調査内容を具体化していく 2)アポイントメントのとり方[電話編]をもとに電話で話すことの下書きを書く。または、メールの書き方[依頼編]（図1）をもとに調査依頼のメールを書く → 返信に再返信する 3) 担当の先生のチェックを受ける 4) 調査対象者に調査を依頼する 2. 事前調査をさらに深める →読んだら分かることは徹底的に調べる 3. 質問項目の確定 →当事者に聞くことによって明らかにしたいこと、深掘りしたいことを質問する 担当教員にいつ・誰にインタビューするか報告する。 共有フォルダにある「研究計画書&調査一覧」（図2）に調査予定を入力する。 調査3 調査日時: 月 日() 時 分～ 調査対象: 連絡先: 担当者: 調査方法:インタビュー(□対面/□Zoom) / アンケート(□オンライン/□質問紙) 事前連絡:□不要 / □必要 月 日() 備考: 調査先の企業、調査内容、日時等を決定し企業に直接アポを取る		
評価方法	① インタビュー調査を依頼し、日程調整や事前質問を自ら実践できる。		

		探究BASIC 中間発表会 ★発表の手順 ①発表グループは、教壇でプレゼンテーションを行う(5分以内)。 ②傾聴者は配布された付箋に「質問」を記入しながら能動的に参加する。 ③発表終了後、質疑(5分)。その後、付箋を印刷された発表スライドに貼り付ける。 ④全グループが終わればリフレクション ※注意事項 (1)発表会であるが、質問作りをメインにした、「三角ロジック」から「対話型論証」への重要なステップと位置付けること。 (2)「質問」は基本的に何でもよいが、質問の視点を①「データに対する質問」、②「データから言えること(論拠)に対する質問」、③「主張に対する質問」と焦点化すると自分だけでなく、相手の思考の整理にも役立つ。 (3)付箋紙による「質問」は、発表者がそれ迄になかった視点や考え方を知るチャンスにもなる。そのため、「なるほど〜でも…(←これは記載しなくてもよい)」という枠組みで「質問」を作ってみよう。 (4)発表者は付箋紙の「質問」を整理し、「質問」に対して反駁を考え、さらにそれを取り込んでより有意で説得力のある「結論」を導いていく。だから「質問」は発表者への「差し入れ」であり、この「差し入れ」である「質問」を高次の結論や提言につないでいくのが「対話型論証」である。
評価方法	① 結果, ②考察, ③主張の観点から, 調査結果の情報を整理し, 分析ができている。	
宿題指示	次回は中間発表なので、発表できるように準備しておく。	

授業日	1月22日	3学期授業回数	3回目 / 全6回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】③ 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】①② 本時の具体的な目標 ・これまでの調査で得た情報とそれに対する分析を根拠とし, RQ に対する主張を発表することができる。		
時間 授業内容	15:40	発表前の説明 ・来週から今まで作成したスライドをポスターに仕上げていく。ポスターは情報メディア教室で作成する。 ・発表者は5分目安で発表し、聴衆は発表を聞きながら付箋に質問を書いていく。 ・探究の教育を支援する会社を起業している大学生が来ているので、発表後に大学生による質疑応答がある。 ・聴衆は「この主張はおかしいのでは？」と思えばその旨を付箋に書き、発表・質疑応答終了後に前の「主張のスライドに付箋を貼っていく。 ・もらった質問に対して、反駁・反論を考え、さらにそれを取り込んで、より説得力のある結論を、残りの2週間で導いていこう。これが対話型論証である。 ・発表の仕方は、次のような流れを基本とする。「私たちは〇〇の課題について〇〇の問いを立てました」「そこから〇〇という仮説をたて」「先行研究を調べると〇〇という情報が得られ」「そこで私たちは実際に〇〇という調査をしました」「そこで得られたデータは〇〇です」「そして先行研究・調査によって得られたデータから、〇〇が言えます」「そこで、私たちは現在〇〇というように考えています」 ・各班のスライドは既に印刷済み。見にくい人は、共有ファイルで閲覧すること。 ・「研究の枠組み」を利用して質問する 1) データに対する質問 2) データから言えること(論拠)に対する質問 3) 主張に対する質問 ・難しい人は、配布資料「質問のヒント」参考にすること。	

	A 班から F 班まで、順番に発表（5 分目安） 1. 班は壇上で発表する（聴衆は付箋に質問を書く） 2. 大学生、生徒、教員より質問 3. 聴衆は付箋を前に貼っていく 4. 付箋貼り付け済のスライド用紙を回収し、発表班に渡す 17:40 教員と大学生によるフィードバックと、最終発表に向けての連絡 
評価方法	① これまでの調査を、順序に沿って簡潔に発表することができる ② 「研究の枠組み」を参考に、質問をすることができる（質問の付箋を作成できる）。
宿題指示	今回の発表でもらった質問に対して、反駁・反論を考える。さらにそれを取り込んで、より説得力のある結論を導く。

授業日	1 月 2 9 日	3 学期授業回数	4 回目 / 全 6 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】① 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】①② 本時の具体的な目標 ① 対立意見・異なる意見を整理し、それに対して反駁することができる。 ② ポスター発表に向け、探究の成果が分かりやすく伝わるポスターを作成することができる。		
時間 授業内容	連絡事項 1) これまでの探究スライドを、最終発表に向けて 1 枚のポスターにする。OneDrive 共有フォルダに、班ごとのポスターの雛形がある。右の参考資料を見ながら作成してく。 2) ポスターセッション当日 2 / 19 に関する説明 ポスター制作（次回授業で完成とする） ・デスクトップ PC を用いて、共有ファイルのポスターを班で作成していく 		

評価方法	これまでの探究活動を俯瞰し、参考資料の内容に沿ってポスターを制作している。
宿題指示	次回の講義でポスターが完成するよう、各班で制作していく。

授業日	2月5日	3学期授業回数	5回目 / 全6回														
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】① 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】①②																
	本時の具体的な目標 ① これまでの調査を踏まえて、自分たちなりの結論・提言を導くことができる ② ポスター発表に向け、探究の成果を分かりやすく伝えられるポスターを作成することができる、																
時間 授業内容	15:40	最終発表（ポスターセッション）の説明 当日は放課後に発表教室（中教室）に集合し、ポスター貼付などの準備を迅速に行う。その他詳細は右図のスライドを参照。 ポスター制作&発表の役割分担 ポスターセッションの要項 ■ ポスター発表とは…… 1枚のポスターの内容を見学者に 対面で伝える発表。見学者は自 分の興味のあるポスターを見 学し、質問する。 ・説明 7分 ・質疑応答 3分 が目安 (10分でベルが鳴ります×3回発表) ■ 当日の留意点 ① 迅速な貼り付け・入れ替え ② 自分の発表でないときは、 他の班ポスターをすべて見学 ・評価用紙の記入 ・積極的な質問 ⚠ 他者への評価の内容も成績評価に入れます ■ タイムスケジュール <table><tr><th>時間</th><th>発表内容</th></tr><tr><td>15:55 16:00</td><td>ポスター貼り付け・準備</td></tr><tr><td>30分</td><td>A・B・C班 発表</td></tr><tr><td>5分</td><td>コメント記入&入れ替え</td></tr><tr><td>30分</td><td>D・E・F班 発表</td></tr><tr><td>5分</td><td>コメント記入</td></tr><tr><td>10分</td><td>講評／ポスター片付け</td></tr></table> 前回到引き続き最終発表に向けてポスターを完成させる。 ※右図は制作の様子。各班で同じポスターを共有し、同時に編集している。 班ごとに担当教員よりチェックを受けて終了 ※19時00分に最終班が終了した。		時間	発表内容	15:55 16:00	ポスター貼り付け・準備	30分	A・B・C班 発表	5分	コメント記入&入れ替え	30分	D・E・F班 発表	5分	コメント記入	10分	講評／ポスター片付け
時間	発表内容																
15:55 16:00	ポスター貼り付け・準備																
30分	A・B・C班 発表																
5分	コメント記入&入れ替え																
30分	D・E・F班 発表																
5分	コメント記入																
10分	講評／ポスター片付け																
評価方法	これまでの探究活動を俯瞰し、参考資料の内容に沿ってポスターを制作している。																
宿題指示	次回の最終発表に向け、各班で発表練習などの準備をする																

授業日	2月19日	3学期授業回数	5回目 / 全6回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】③【思考力・判断力・表現力】①②【学びに向かう力・人間性】①②③ 本時の具体的な目標 ・探究の成果を分かりやすく伝え、質疑応答に自分たちなりに回答することができる。		
時間 授業内容		連絡事項 流れの概要＜1回の発表時間は10分（7分説明＋3分説明）であり、各班は3回同じ発表を繰り返す＞ 1回目（発表側、発表を聴く側）：（A班、D班＋教員）、（B班、E班＋教員）、（C班、F班＋教員） 2回目（発表側、発表を聴く側）：（A班、E班＋教員）、（B班、F班＋教員）、（C班、D班＋教員） 3回目（発表側、発表を聴く側）：（A班、F班＋教員）、（B班、D班＋教員）、（C班、E班	

		+ 教員) ※ポスターを変更する。プラ板の表に前半のポスターを張り、裏に後半のポスターを張っている。 4回目 (発表側, 発表を聴く側) : (D 班, A 班+教員), (E 班, B 班+教員), (F 班, C 班+教員) 5回目 (発表側, 発表を聴く側) : (D 班, B 班+教員), (E 班, C 班+教員), (F 班, A 班+教員) 6回目 (発表側, 発表を聴く側) : (D 班, C 班+教員), (E 班, A 班+教員), (F 班, B 班+教員)  各グループテーマに関して7分間の発表をし3分間の質問時間が設けられている  発表の様子  発表の様子 17:15 教員とゲストからの講評 17:30 解散
評価方法	聴き手に配布しているコメントシートを参考に、探究の活動をわかりやすく伝えられたか判断する。	
宿題指示	期末考査後、口頭試問を実施する。これまでの探究活動を振り返っておく。	

授業日		3 学期授業回数	5 回目 / 全 6 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】		
	本時の具体的な目標 ・ ・		
時間 授業内容			
評価方法			
宿題指示			

授業日		3 学期授業回数	6 回目 / 全 6 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】 【思考力・判断力・表現力】 【学びに向かう力・人間性】		
	本時の具体的な目標 ・ ・		
時間 授業内容			
評価方法			
宿題指示			